

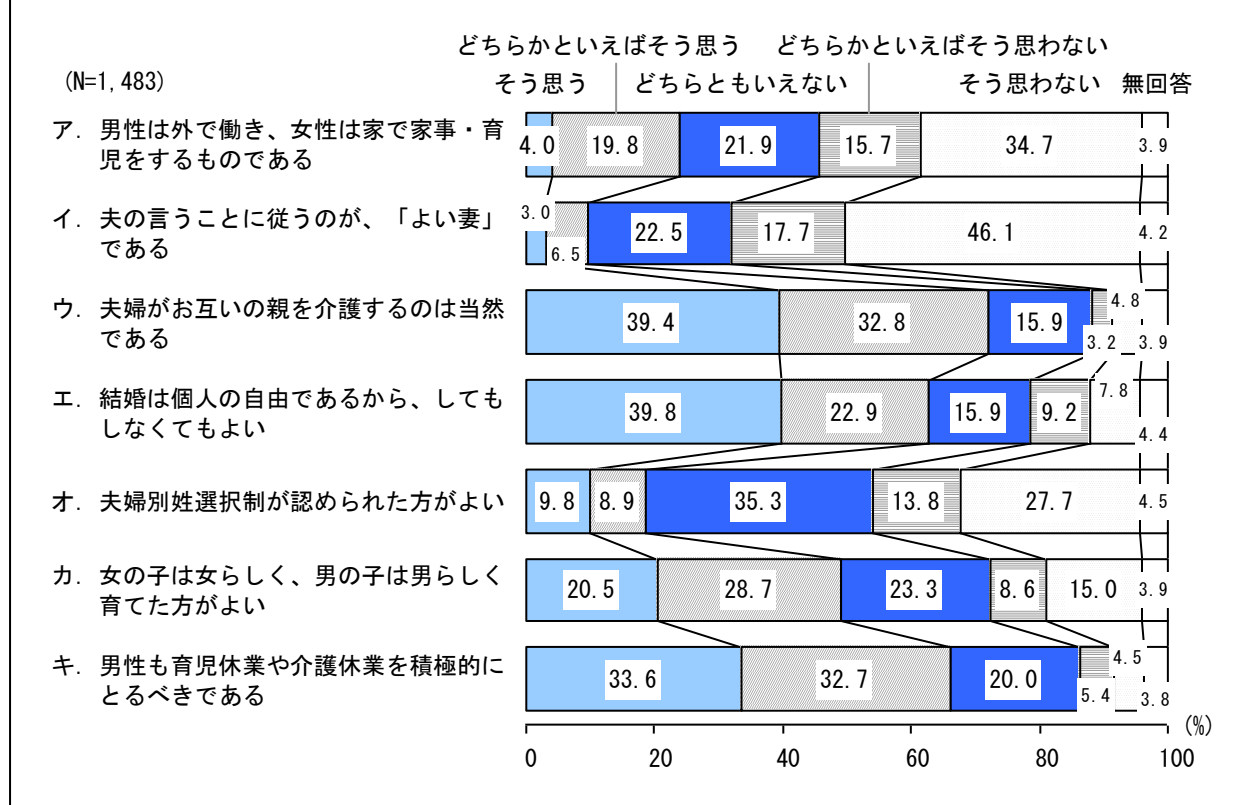
3 男女平等について

(1) 男女平等に関する各意見についての考え方

問 13 次のような意見について、あなたはどのように思いますか。

(ア～キのそれぞれについてあてはまる番号 1 つに○)

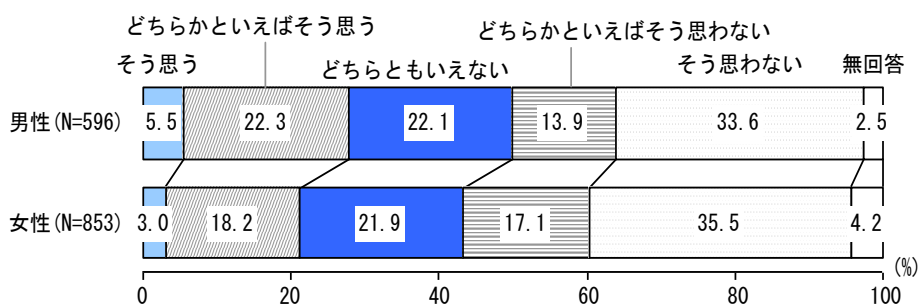
【図 3-1 男女平等に関する各意見についての考え方】



男女平等に関する各意見についての考え方として、“否定派”が“肯定派”に比べ割合が高い項目は、「イ. 夫の言うことに従うのが、「よい妻」である」(63.8%)、「ア. 男性は外で働き、女性は家で家事・育児をするものである」(50.4%)、「オ. 夫婦別姓選択制が認められた方がよい」(41.5%)となっている。

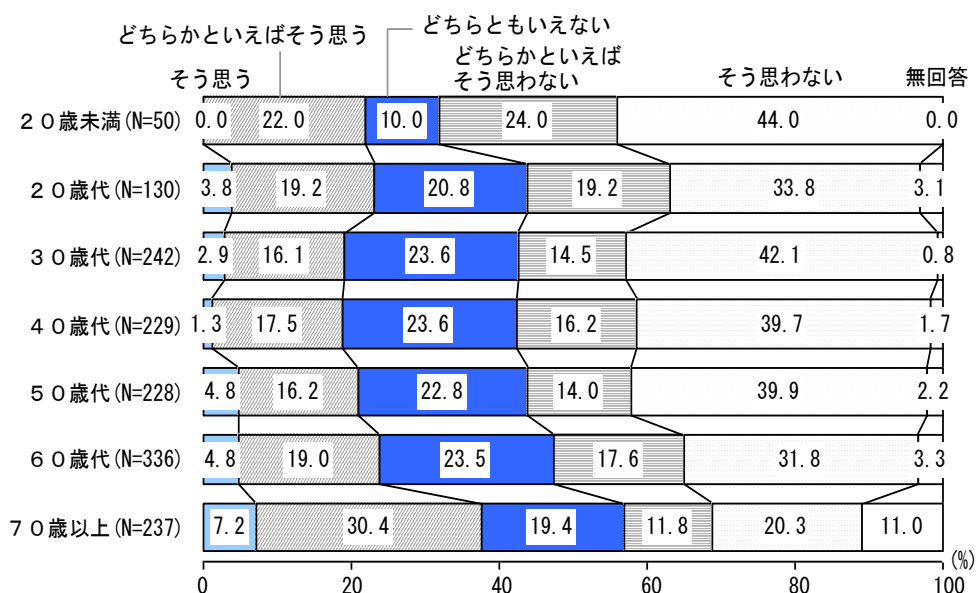
一方、“肯定派”が“否定派”に比べ割合が高い項目は、「ウ. 夫婦がお互いの親を介護するのは当然である」(72.2%)、「キ. 男性も育児休業や介護休業を積極的にとるべきである」(66.3%)、「エ. 結婚は個人の自由であるから、してもしなくてもよい」(62.7%)、「カ. 女の子は女らしく、男の子は男らしく育てた方がよい」(49.2%)となっている。(図 3-1)

【図 3-1-1 性別 ア. 男性は外で働き、女性は家で家事・育児をするものである】



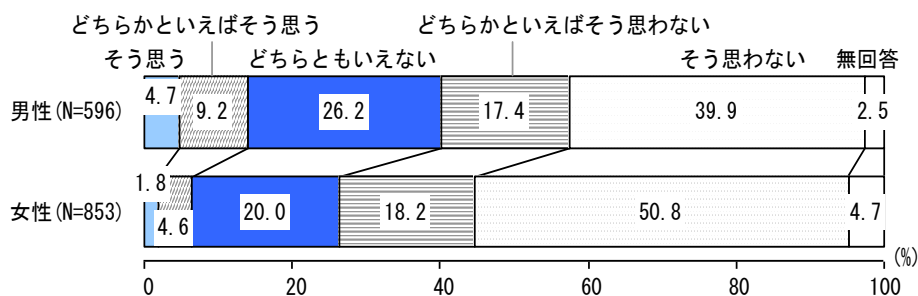
「ア. 男性は外で働き、女性は家で家事・育児をするものである」を性別で見ると、男女とも“否定派”が“肯定派”に比べ割合が高く、女性（52.6%）が男性（47.5%）に比べ 5.1 ポイント高くなっている。（図 3-1-1）

【図 3-1-2 年代別 ア. 男性は外で働き、女性は家で家事・育児をするものである】



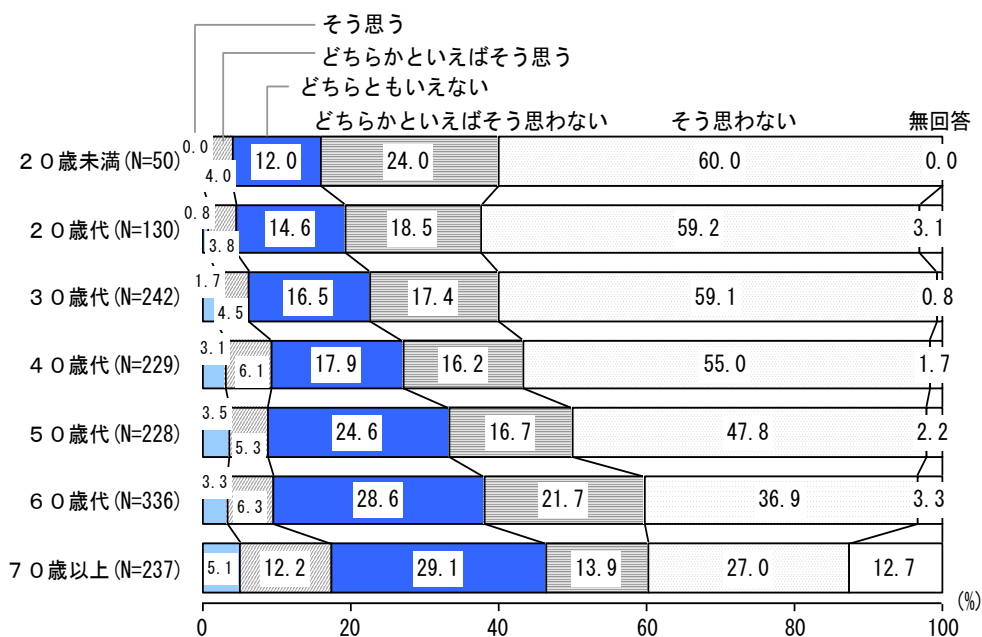
「ア. 男性は外で働き、女性は家で家事・育児をするものである」を年代別で見ると、60歳代以下の年代では“否定派”が“肯定派”に比べ割合が高くなっているが、年代が上がるにつれて低下しており、70歳以上では“肯定派”が“否定派”に比べ割合が高くなっている。（図 3-1-2）

【図 3-1-3 性別 イ. 夫の言うことに従うのが、「よい妻」である】



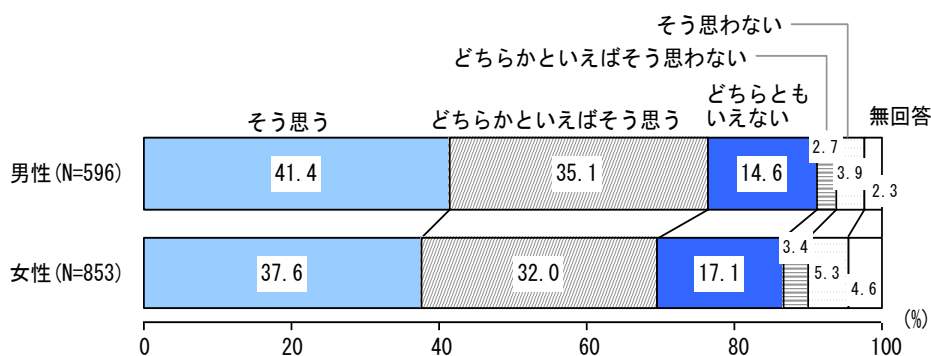
「イ. 夫の言うことに従うのが、「よい妻」である」を性別で見ると、男女とも“否定派”が“肯定派”に比べ割合が高く、女性（69.0%）が男性（57.3%）に比べ11.7ポイント高くなっている。（図 3-1-3）

【図 3-1-4 年代別 イ. 夫の言うことに従うのが、「よい妻」である】



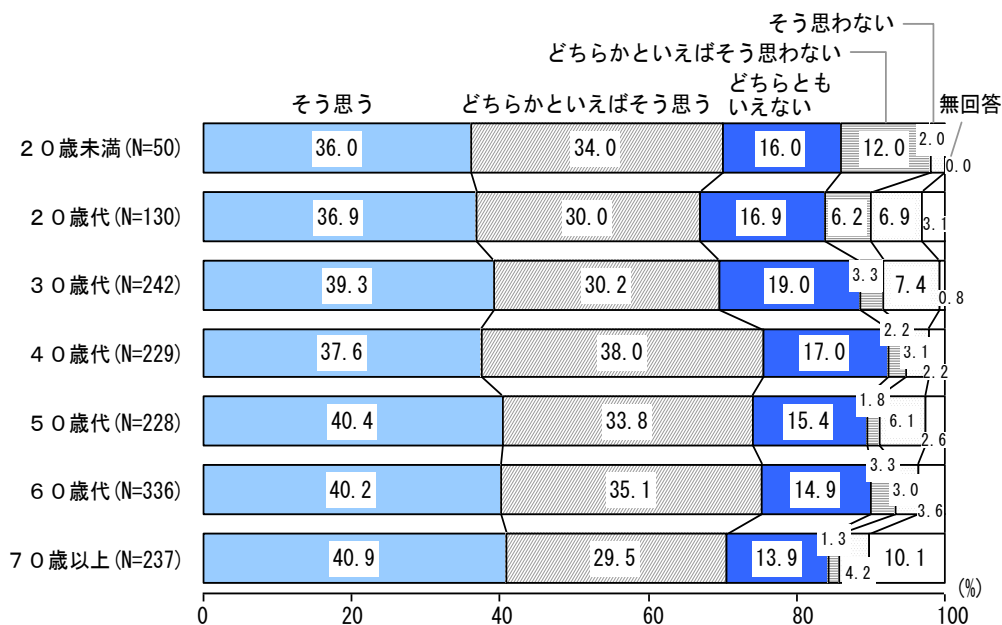
「イ. 夫の言うことに従うのが、「よい妻」である」を年代別で見ると、各年代で“否定派”が“肯定派”に比べ割合が高くなっているが、年代が上がるにつれて“否定派”は低下しており、70歳以上では他の年代と比べ“肯定派”（17.3%）の割合が高くなっている。（図 3-1-4）

【図 3-1-5 性別 ウ. 夫婦がお互いの親を介護するのは当然である】



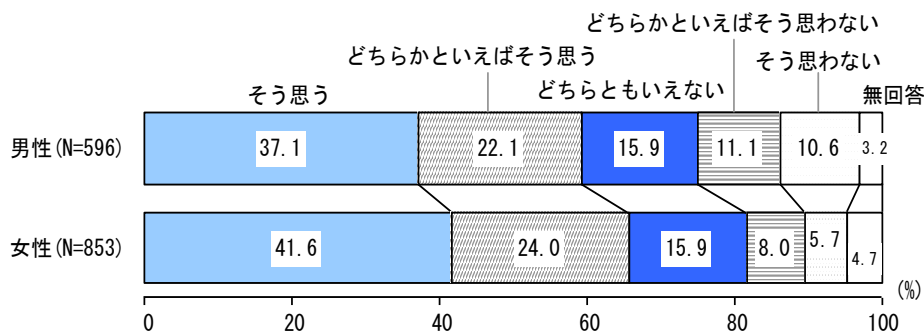
「ウ. 夫婦がお互いの親を介護するのは当然である」を性別で見ると、男女とも“肯定派”が“否定派”に比べ割合が高く、男性（76.5%）が女性（69.6%）に比べ6.9ポイント高くなっている。（図 3-1-5）

【図 3-1-6 年代別 ウ. 夫婦がお互いの親を介護するのは当然である】



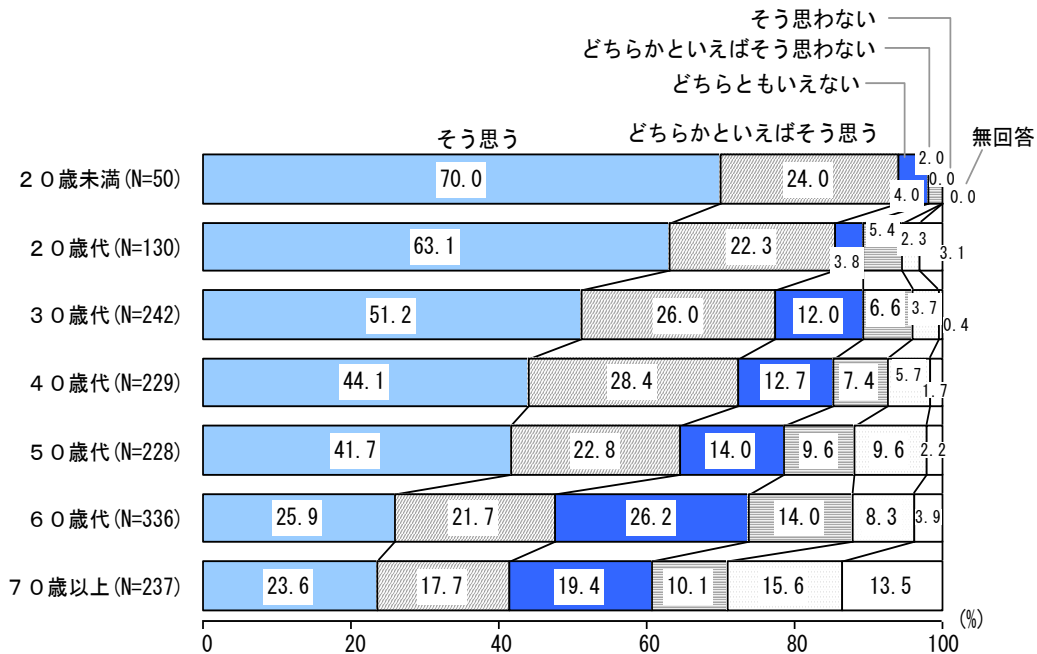
「ウ. 夫婦がお互いの親を介護するのは当然である」を年代別で見ると、各年代で“肯定派”が7割前後を占めて高くなっている。（図 3-1-6）

【図 3-1-7 性別 エ. 結婚は個人の自由であるから、してもしなくてもよい】



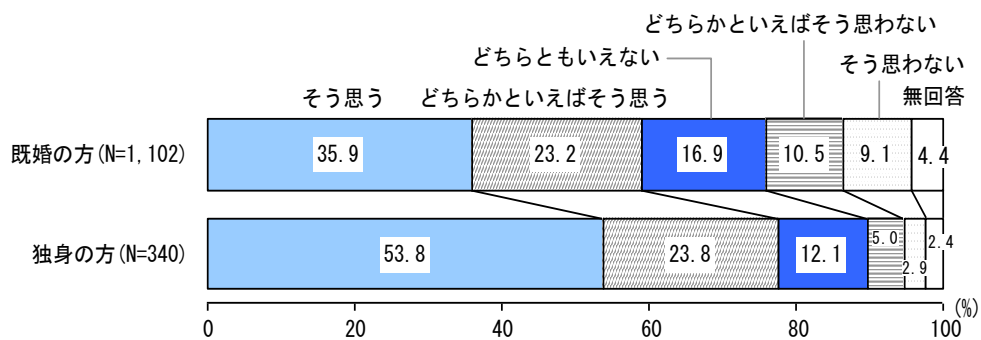
「エ. 結婚は個人の自由であるから、してもしなくてもよい」を性別でみると、男女とも“肯定派”が過半数を占めており、女性（65.6%）が男性（59.2%）に比べ6.4ポイント高くなっている。（図3-1-7）

【図3-1-8 年代別 エ. 結婚は個人の自由であるから、してもしなくてもよい】



「エ. 結婚は個人の自由であるから、してもしなくてもよい」を年代別でみると、各年代で“肯定派”が“否定派”に比べ割合が高くなっているが、年代が上がるにつれて“肯定派”の割合は低下し、“否定派”の割合が上昇している。（図3-1-8）

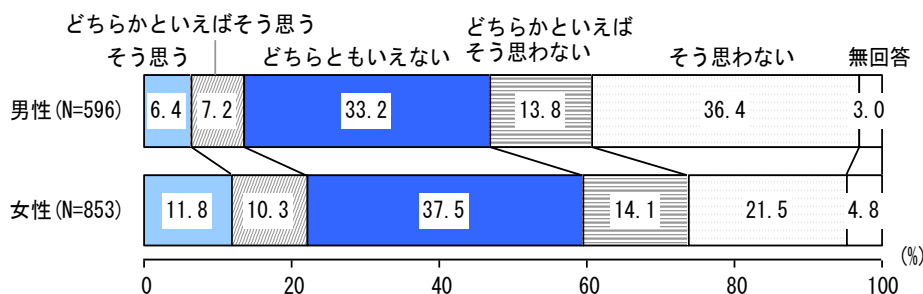
【図3-1-9 結婚の有無別 エ. 結婚は個人の自由であるから、してもしなくてもよい】



「エ. 結婚は個人の自由であるから、してもしなくてもよい」を結婚の有無別でみると、既婚・独身の方とも“肯定派”が過半数を占めており、独身の方（77.6%）が既婚の方（59.1%）に比べ18.5ポイント高くなっている。

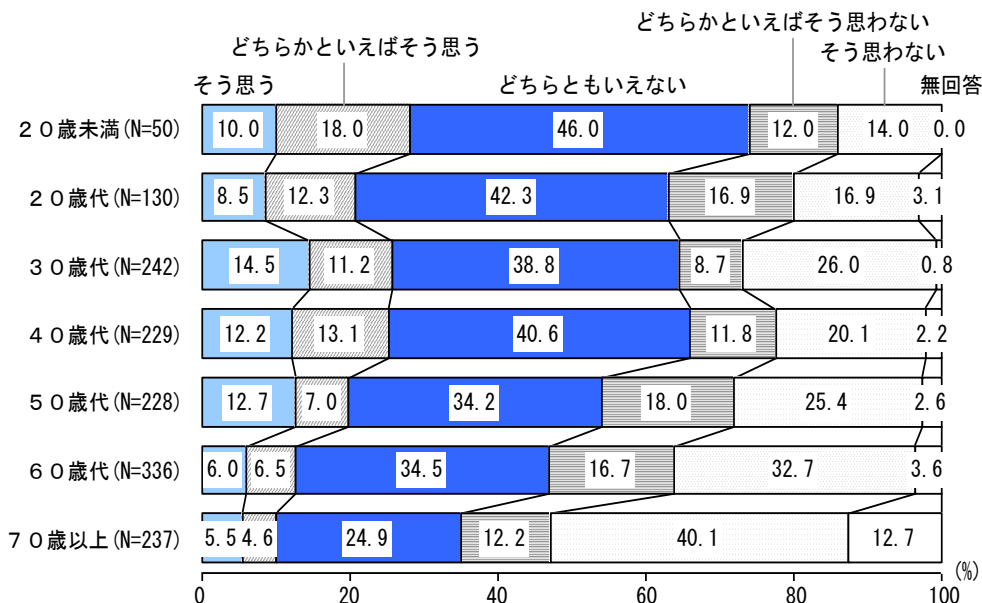
一方、“否定派”では、既婚の方（19.6%）が独身の方（7.9%）に比べ12.3ポイント高くなっている。（図3-1-9）

【図 3-1-10 性別 オ. 夫婦別姓選択制が認められた方がよい】



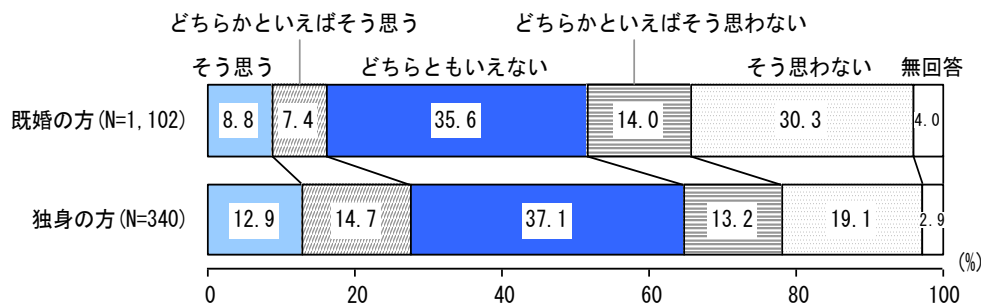
「オ. 夫婦別姓選択制が認められた方がよい」を性別で見ると、男女とも“否定派”が“肯定派”に比べ割合が高くなっており、男性（50.2%）が女性（35.6%）に比べ14.6ポイント高くなっている。（図 3-1-10）

【図 3-1-11 年代別 オ. 夫婦別姓選択制が認められた方がよい】



「オ. 夫婦別姓選択制が認められた方がよい」を年代別で見ると、20歳未満では“肯定派”が“否定派”に比べ割合が高くなっているが、20歳代以上の年代では“否定派”が“肯定派”に比べ割合が高くなっており、年代が上がるにつれて“否定派”の割合が上昇している。（図 3-1-11）

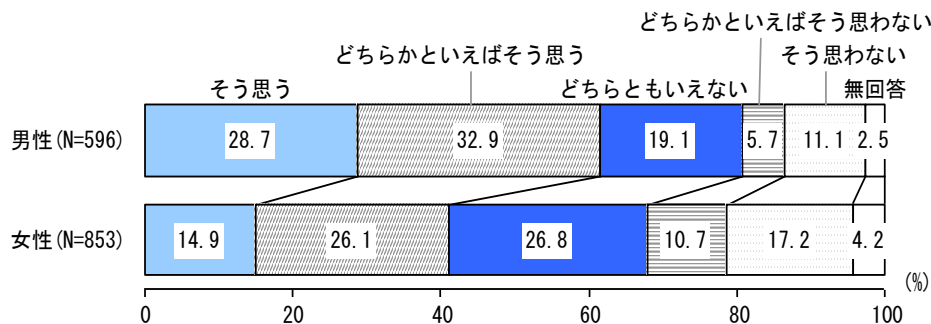
【図 3-1-12 結婚の有無別 オ. 夫婦別姓選択制が認められた方がよい】



「オ. 夫婦別姓選択制が認められた方がよい」を結婚の有無別でみると、既婚・独身の方とも“否定派”が“肯定派”に比べ割合が高くなっており、既婚の方（44.3%）が独身の方（32.3%）に比べ12.0ポイント高くなっている。

一方、“肯定派”では、独身の方（27.6%）が既婚の方（16.2%）に比べ11.4ポイント高くなっている。（図3-1-12）

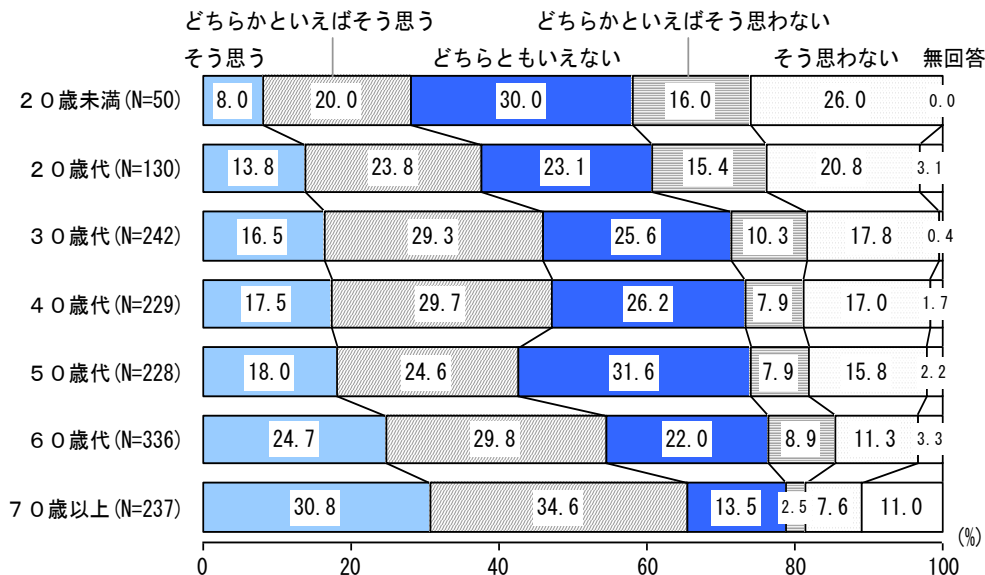
【図3-1-13 性別 カ. 女の子は女らしく、男の子は男らしく育てた方がよい】



「カ. 女の子は女らしく、男の子は男らしく育てた方がよい」を性別でみると、男女とも“肯定派”が“否定派”に比べ割合が高くなっており、男性（61.6%）が女性（41.0%）に比べ20.6ポイント高くなっている。

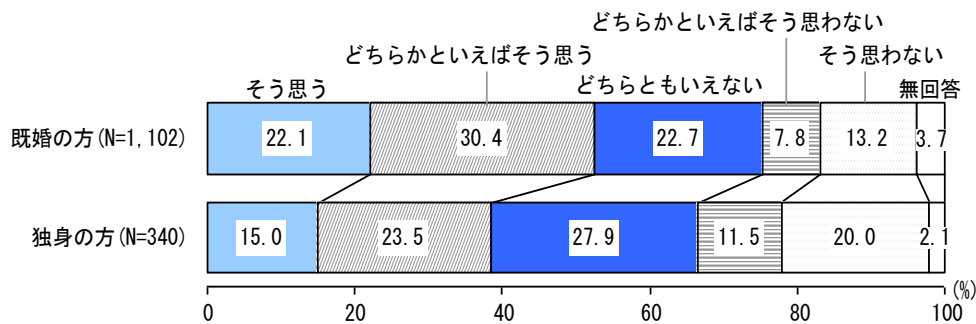
一方、“否定派”では、女性（27.9%）が男性（16.8%）に比べ11.1ポイント高くなっている。（図3-1-13）

【図3-1-14 年代別 カ. 女の子は女らしく、男の子は男らしく育てた方がよい】



「カ. 女の子は女らしく、男の子は男らしく育てた方がよい」を年代別でみると、20歳未満は“否定派”が“肯定派”に比べ割合が高くなっているが、20歳代以上の年代では“肯定派”が“否定派”に比べ割合が高くなっており、年代が上がるにつれて“肯定派”の割合は上昇し、“否定派”の割合が低下している。（図3-1-14）

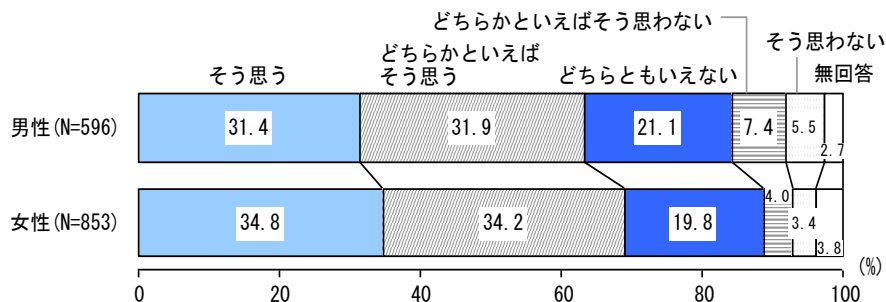
【図 3-1-15 結婚の有無別 カ. 女の子は女らしく、男の子は男らしく育てた方がよい】



「カ. 女の子は女らしく、男の子は男らしく育てた方がよい」を結婚の有無別で見ると、既婚・独身の方とも“肯定派”が“否定派”に比べ割合が高くなっており、既婚の方（52.5%）が独身の方（38.5%）に比べ14.0ポイント高くなっている。

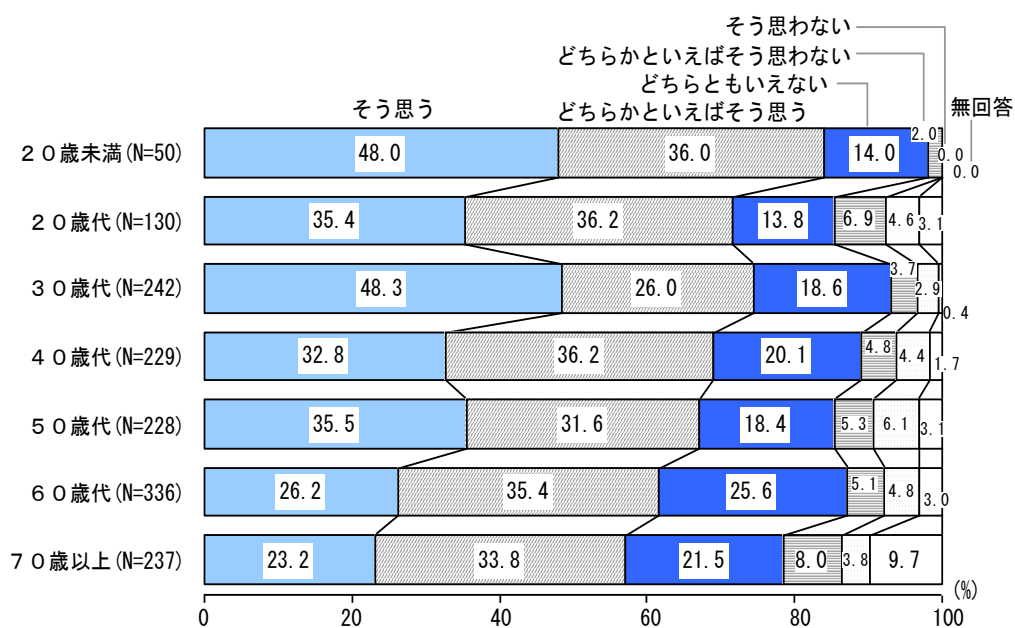
一方、“否定派”では、独身の方（31.5%）が既婚の方（21.0%）に比べ10.5ポイント高くなっている。（図 3-1-15）

【図 3-1-16 性別 キ. 男性も育児休業や介護休業を積極的にとるべきである】



「キ. 男性も育児休業や介護休業を積極的にとるべきである」を性別で見ると、男女とも“肯定派”が過半数を占めており、女性（69.0%）が男性（63.3%）に比べ5.7ポイント高くなっている。（図 3-1-16）

【図 3-1-17 年代別 キ. 男性も育児休業や介護休業を積極的にとるべきである】



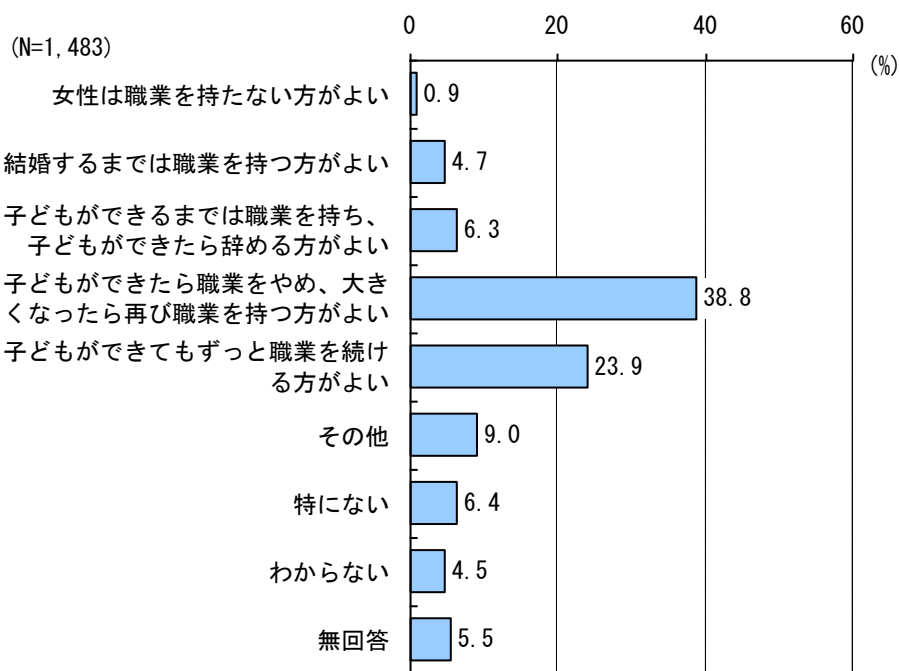
「キ. 男性も育児休業や介護休業を積極的にとるべきである」を年代別でみると、各年代で“肯定派”が過半数を占めているが、年代が上がるにつれて割合が低下している。(図 3-1-17)

(2) 女性が職業を持つことについて

問 14 あなたは、女性が職業を持つことについてどのように思われますか。

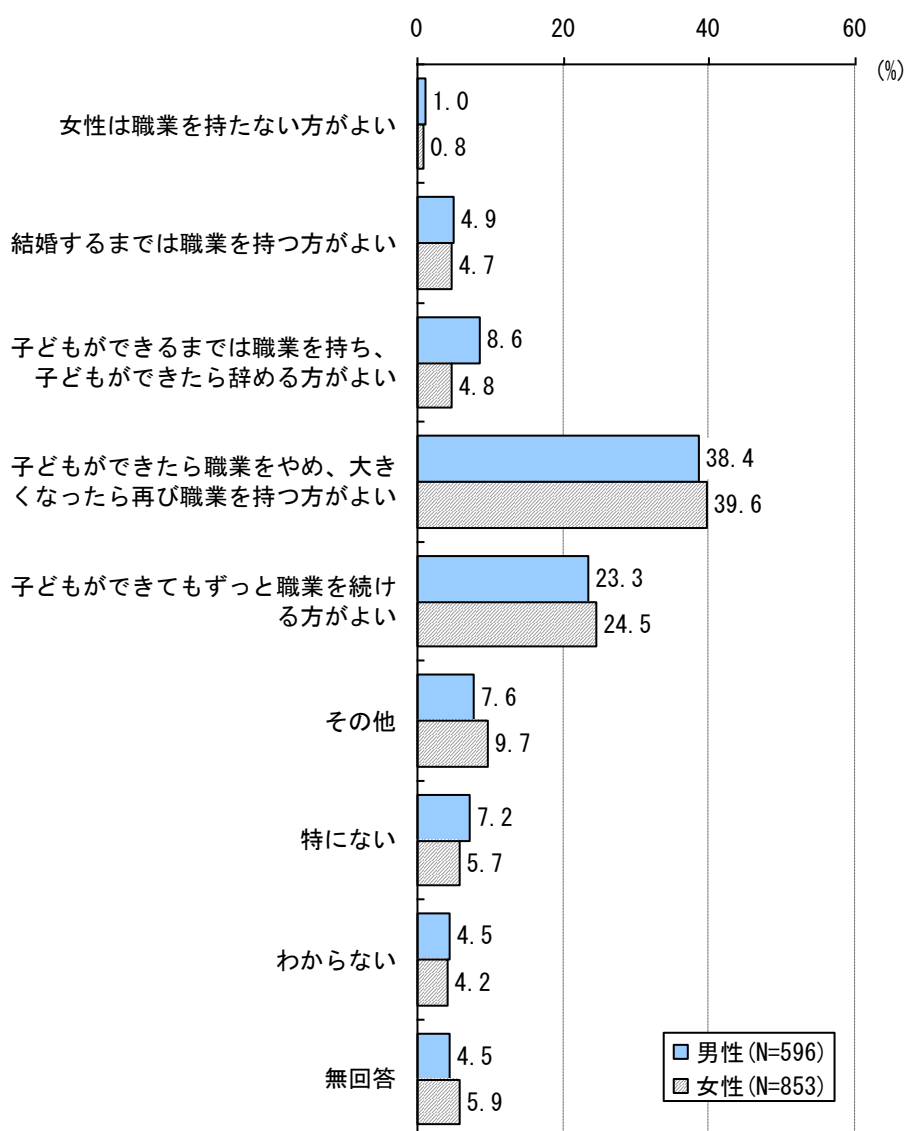
(あてはまる番号1つに○)

【図 3-2 女性が職業を持つことについて】



女性が職業を持つことについて、「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」(38.8%)が最も高く、次いで「子どもができてずっと職業を続ける方がよい」(23.9%)と続いている。(図 3-2)

【図 3-2-1 性別 女性が職業を持つことについて】



女性が職業を持つことについて性別で見ると、男女とも「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」が最も高く（男性／38.4%、女性／39.6%）、次いで「子どもができてもずっと職業を続ける方がよい」となっており（男性／23.3%、女性／24.5%）、差はほとんど見られない。

「子どもができるまでは職業を持ち、子どもができたなら辞める方がよい」では、男性（8.6%）が女性（4.8%）に比べ3.8ポイント高くなっている。（図 3-2-1）

【表 3-2-2 年代別 女性が職業を持つことについて】

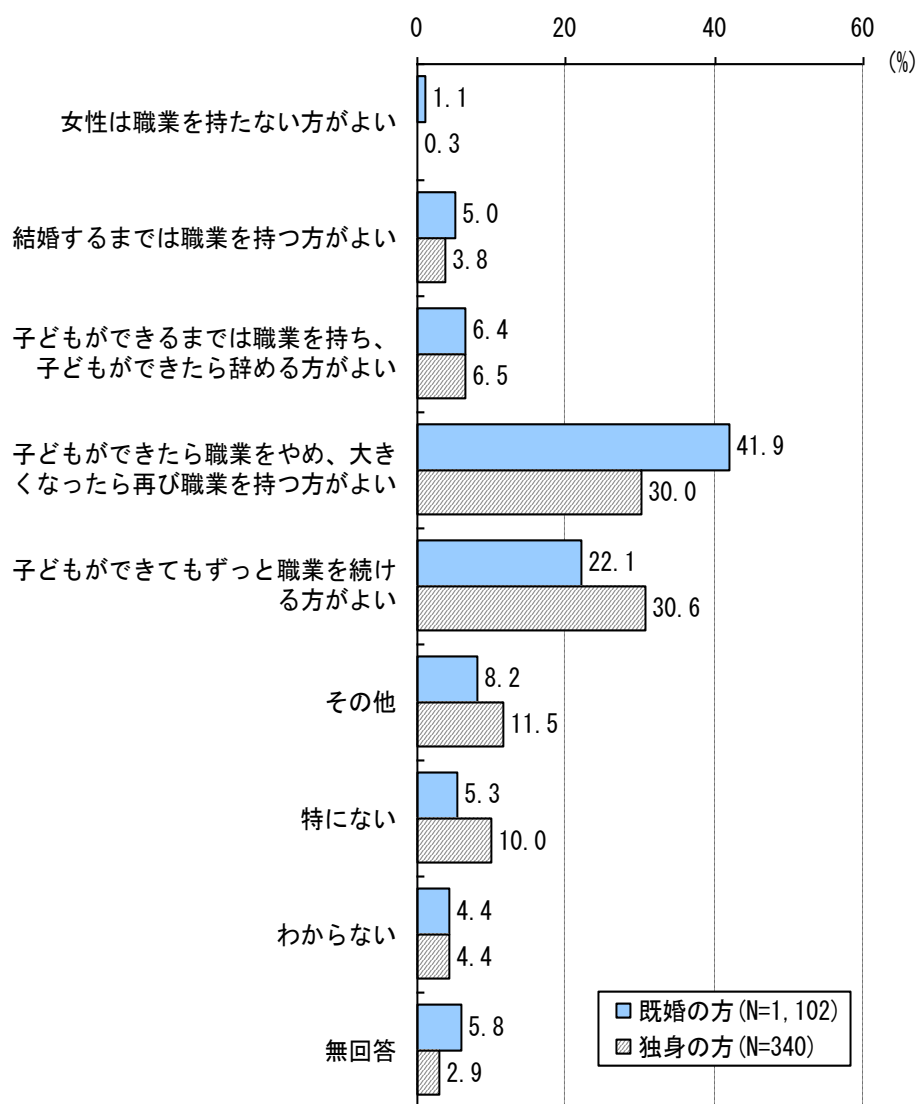
(上段：回答者数／下段：回答比率) (%)

	調査数	女性は職業を持たない方がよい	結婚するまでは職業を持つ方がよい	子どもができたなら辞める方がよい	子どもができたなら再び職業を持つ方がよい	子どもが大きくなったら再び職業をやめ、大きくならなければ職業を続ける方がよい	子どもができてもしっかりと職業を続ける	その他	特になし	わからない	無回答
20歳未満	50 100.0	- -	1 2.0	2 4.0	19 38.0	15 30.0	6 12.0	3 6.0	2 4.0	2 4.0	
20歳代	130 100.0	1 0.8	8 6.2	10 7.7	52 40.0	23 17.7	19 14.6	7 5.4	6 4.6	4 3.1	
30歳代	242 100.0	- -	6 2.5	14 5.8	88 36.4	62 25.6	26 10.7	28 11.6	13 5.4	5 2.1	
40歳代	229 100.0	2 0.9	7 3.1	7 3.1	74 32.3	66 28.8	31 13.5	23 10.0	11 4.8	8 3.5	
50歳代	228 100.0	2 0.9	9 3.9	10 4.4	79 34.6	64 28.1	25 11.0	18 7.9	11 4.8	10 4.4	
60歳代	336 100.0	3 0.9	16 4.8	29 8.6	155 46.1	73 21.7	19 5.7	11 3.3	11 3.3	19 5.7	
70歳以上	237 100.0	5 2.1	22 9.3	20 8.4	100 42.2	46 19.4	4 1.7	2 0.8	9 3.8	29 12.2	

女性が職業を持つことについて年代別で見ると、各年代で「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」が最も高くなっており、20歳代と60歳代以上の年代では4割台を占めている。

「子どもができてもしっかりと職業を続ける方がよい」では、20歳代未満が30.0%となっている。
(表 3-2-2)

【図 3-2-3 結婚の有無別 女性が職業を持つことについて】



女性が職業を持つことについて結婚の有無別で見ると、「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」では、既婚の方（41.9%）が独身の方（30.0%）に比べ11.9ポイント高くなっている。

また、「子どもができてずっと職業を続ける方がよい」では、独身の方（30.6%）が既婚の方（22.1%）に比べ8.5ポイント高くなっている。（図 3-2-3）

【表 3-2-4 最終学歴別 女性が職業を持つことについて】

(上段：回答者数／下段：回答比率) (%)

	調査数	女性は職業を持たない方がよい	結婚するまでは職業を持つ方がよい	子どもができたならば職業を持ち、子どもができたならば職業を持つ方がよい	子どもができたならば職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい	子どもができてもしっかりと職業を続ける方がよい	その他	特にない	わからない	無回答
中学校など	189 100.0	1 0.5	15 7.9	19 10.1	81 42.9	31 16.4	4 2.1	9 4.8	8 4.2	21 11.1
高等学校など	574 100.0	7 1.2	30 5.2	38 6.6	233 40.6	127 22.1	46 8.0	31 5.4	31 5.4	31 5.4
短大、専門学校など	349 100.0	3 0.9	12 3.4	15 4.3	139 39.8	81 23.2	41 11.7	32 9.2	15 4.3	11 3.2
大学、大学院	317 100.0	1 0.3	11 3.5	19 6.0	109 34.4	105 33.1	39 12.3	19 6.0	8 2.5	6 1.9
その他	8 100.0	-	1 12.5	-	3 37.5	1 12.5	-	-	-	3 37.5

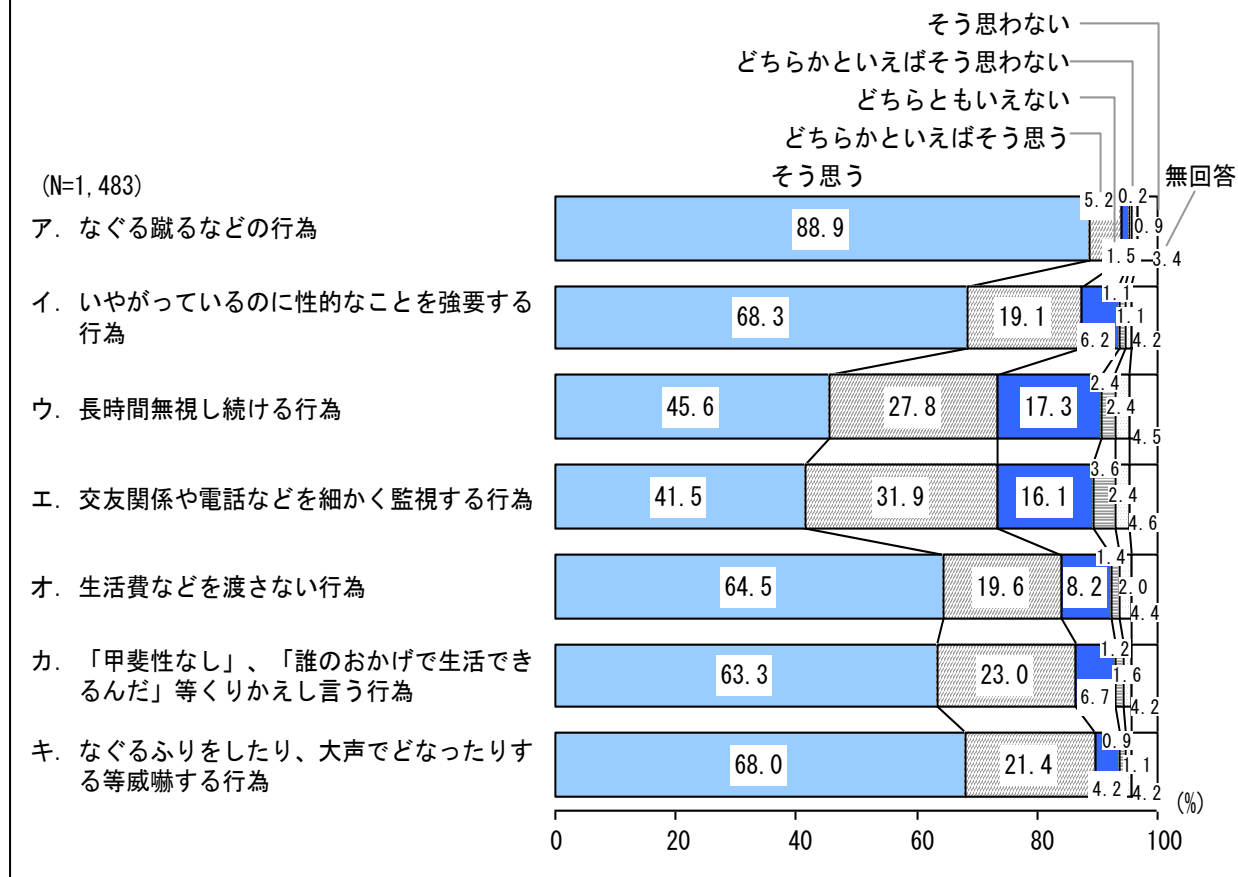
女性が職業を持つことについて最終学歴別で見ると、各学歴で「子どもができたならば職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」が最も高くなっているが、高学歴になるにつれて割合が低下している。

また、「子どもができてもしっかりと職業を続ける方がよい」では、高学歴になるにつれて割合が上昇している。(表 3-2-4)

(3) 配偶者間で行われる暴力についての考え方

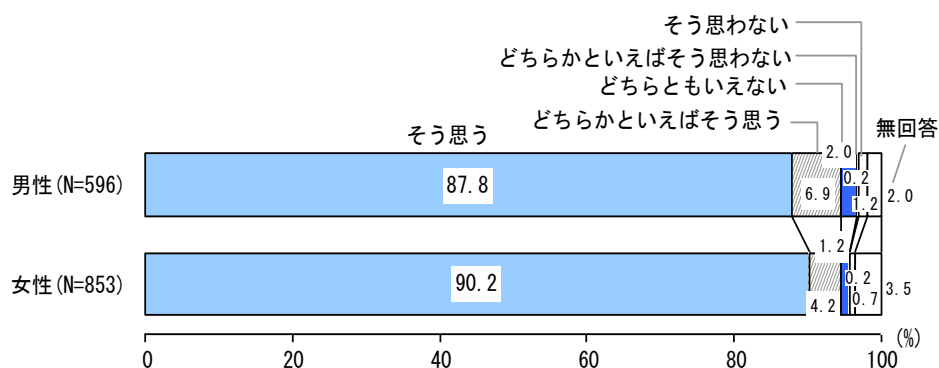
問 15 あなたは、次のような事柄が配偶者（事実婚・別居中を含む）間で行われた場合について、暴力だと思いますか。（ア～キのそれぞれについてあてはまる番号 1 つに○）

【図 3-3 配偶者間で行われる暴力についての考え方】



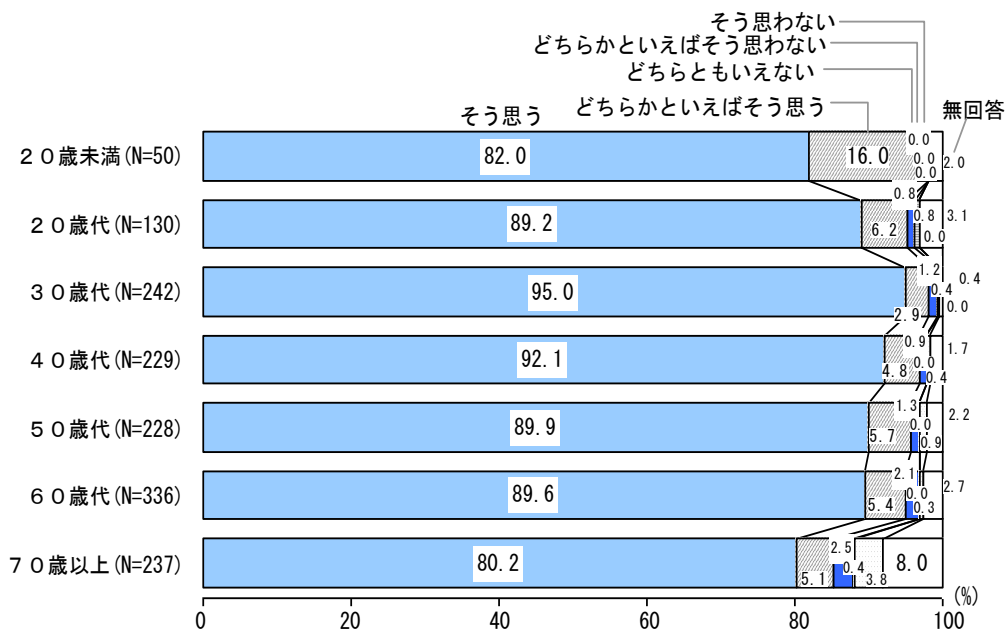
配偶者間で行われる暴力についての考え方として、どの項目もアからキの行為を暴力と考える“肯定派”の割合が7割以上と高くなっており、特に「ア. なぐる蹴るなどの行為」では「そう思う」が88.9%を占めている。（図 3-3）

【図 3-3-1 性別 ア. なぐる蹴るなどの行為】



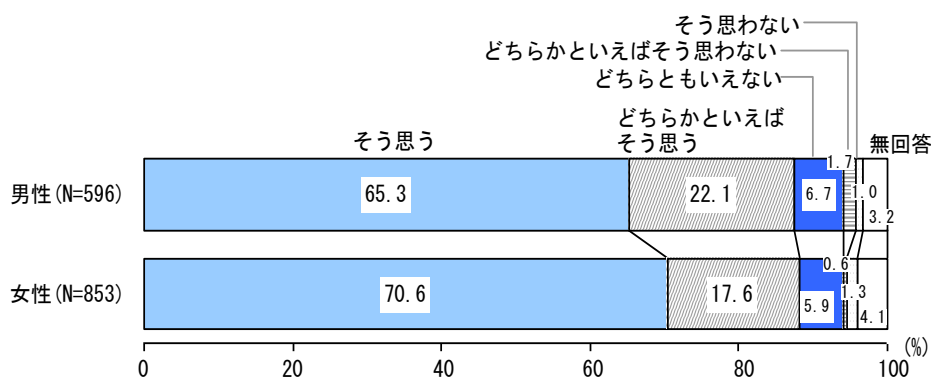
「ア. なぐる蹴るなどの行為」を性別で見ると、男女とも暴力と考える“肯定派”が9割台を占めている。(図 3-3-1)

【図 3-3-2 年代別 ア. なぐる蹴るなどの行為】



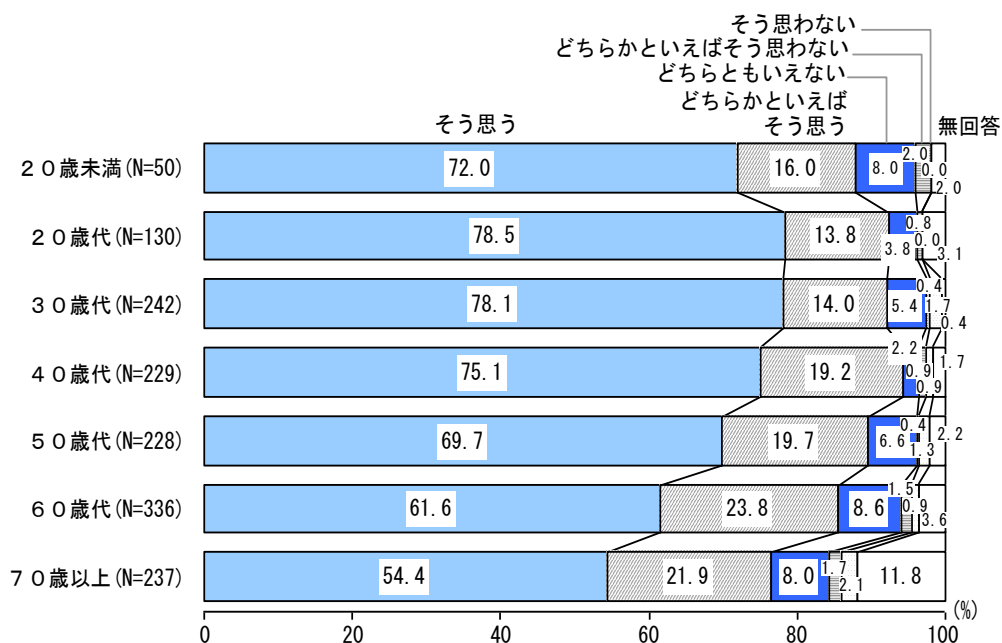
「ア. なぐる蹴るなどの行為」を年代別で見ると、各年代で暴力と考える“肯定派”が8割以上を占めている。(図 3-3-2)

【図 3-3-3 性別 イ. いやがっているのに性的なことを強要する行為】



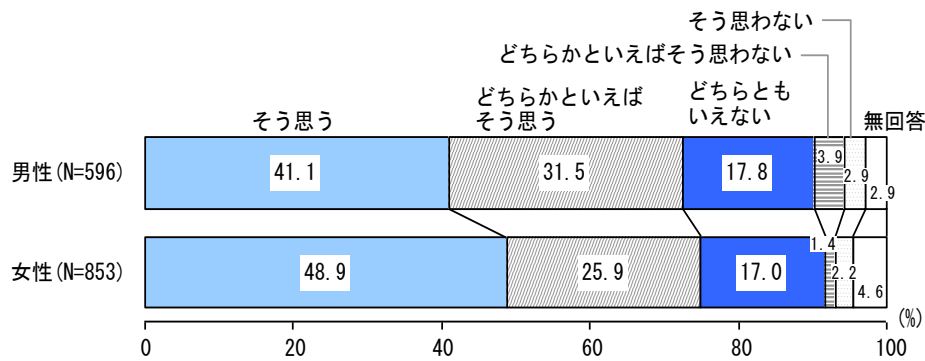
「イ. いやがっているのに性的なことを強要する行為」を性別で見ると、男女とも暴力と考える“肯定派”が8割台を占めており、「そう思う」の割合では、女性（70.6%）が男性（65.3%）に比べ5.3ポイント高くなっている。（図 3-3-3）

【図 3-3-4 年代別 イ. いやがっているのに性的なことを強要する行為】



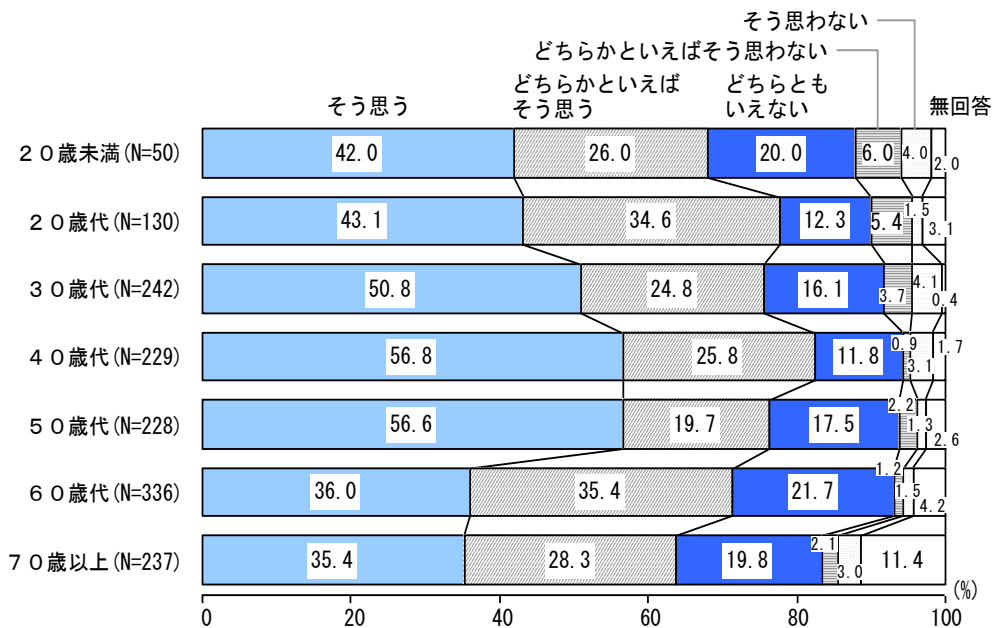
「イ. いやがっているのに性的なことを強要する行為」を年代別で見ると、各年代で暴力と考える“肯定派”が過半数を占めているが、年代が上がるにつれて「そう思う」の割合が低下している。（図 3-3-4）

【図 3-3-5 性別 ウ. 長時間無視し続ける行為】



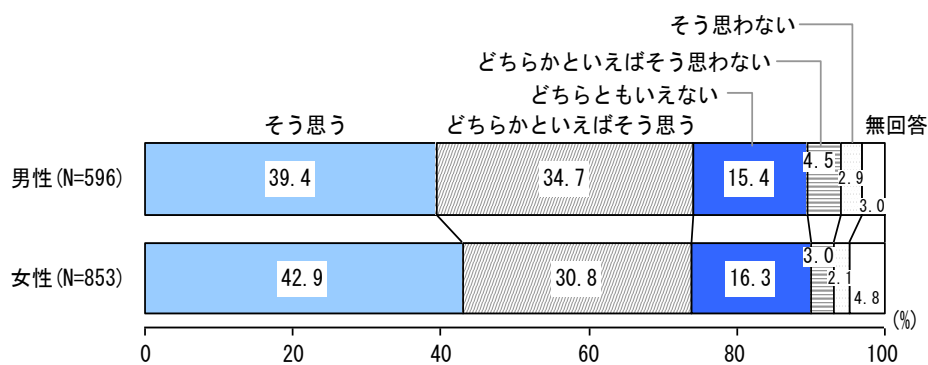
「ウ. 長時間無視し続ける行為」を性別で見ると、男女とも暴力と考える“肯定派”が7割台を占めており、「そう思う」の割合では、女性（48.9%）が男性（41.1%）に比べ7.8ポイント高くなっている。（図 3-3-5）

【図 3-3-6 年代別 ウ. 長時間無視し続ける行為】



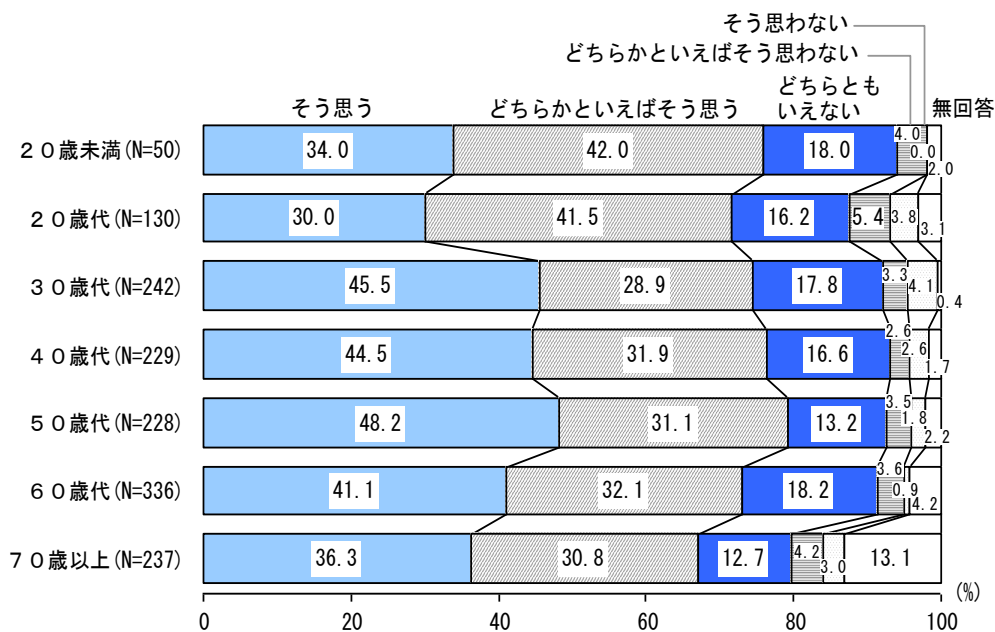
「ウ. 長時間無視し続ける行為」を年代別で見ると、各年代で暴力と考える“肯定派”が6割以上を占めており、「そう思う」の割合では、30歳代～50歳代が5割台を占めている。（図 3-3-6）

【図 3-3-7 性別 エ. 交友関係や電話などを細かく監視する行為】



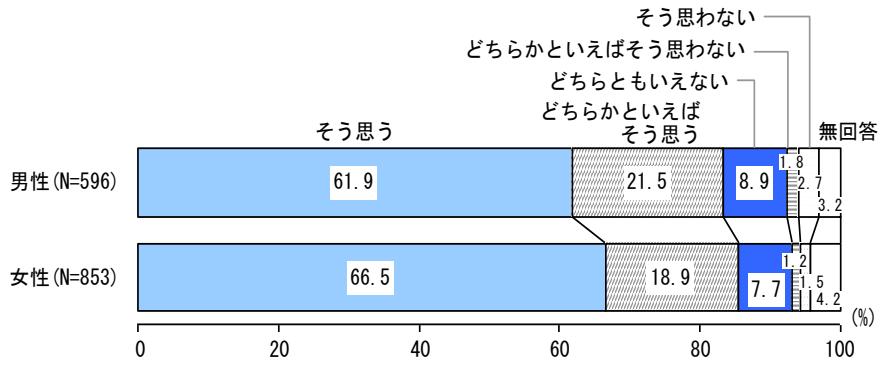
「エ. 交友関係や電話などを細かく監視する行為」を性別で見ると、男女とも暴力と考える“肯定派”が7割台を占めている。(図 3-3-7)

【図 3-3-8 年代別 エ. 交友関係や電話などを細かく監視する行為】



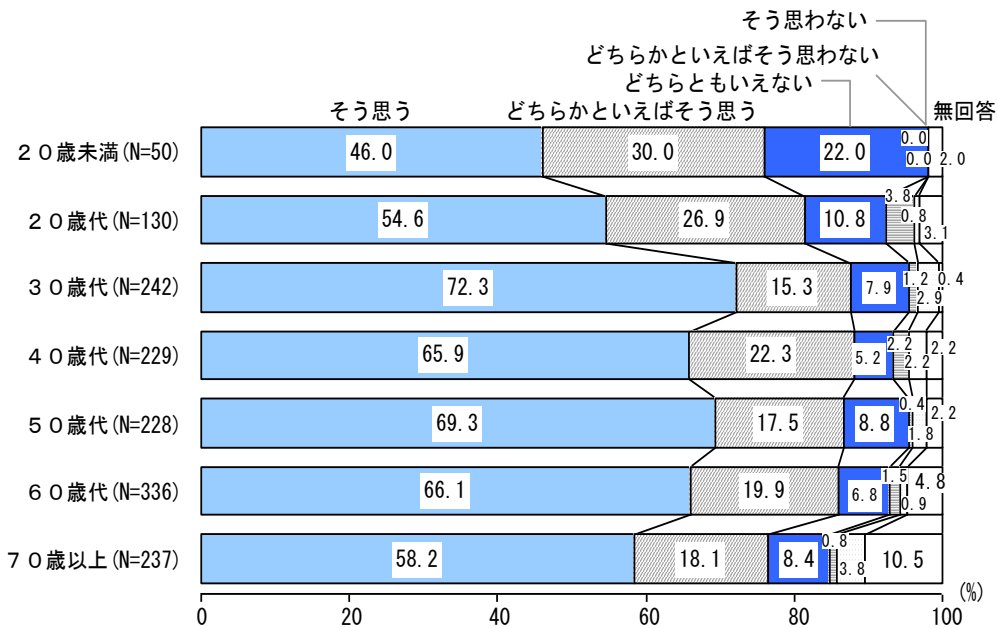
「エ. 交友関係や電話などを細かく監視する行為」を年代別で見ると、各年で暴力と考える“肯定派”が過半数を占めており、特に50歳代では79.3%と高くなっている。(図 3-3-8)

【図 3-3-9 性別 オ. 生活費などを渡さない行為】



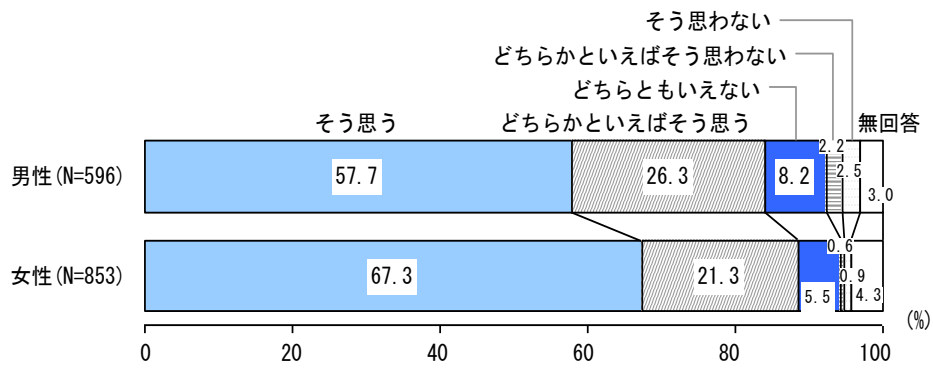
「オ. 生活費などを渡さない行為」を性別で見ると、男女とも暴力と考える“肯定派”が8割台を占めており、「そう思う」の割合では、女性（66.5%）が男性（61.9%）に比べ4.6ポイント高くなっている。（図 3-3-9）

【図 3-3-10 年代別 オ. 生活費などを渡さない行為】



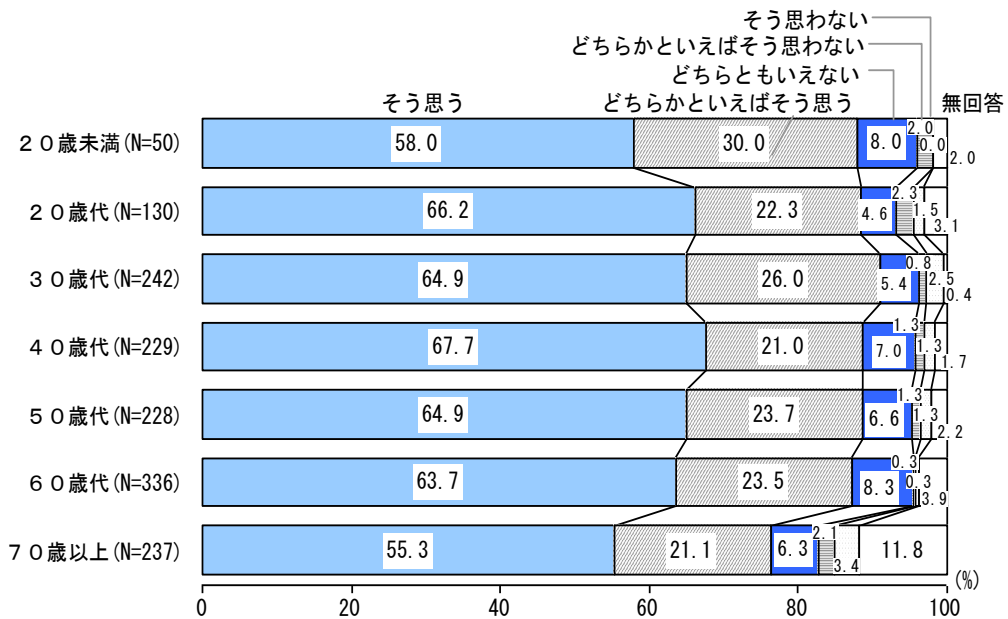
「オ. 生活費などを渡さない行為」を年代別で見ると、各年代で暴力と考える人が7割以上を占めており、「そう思う」の割合では、30歳代で72.3%と高くなっている。（図 3-3-10）

【図 3-3-11 性別 カ. 「甲斐性なし」、「誰のおかげで生活できるんだ」等くりかえし言う行為】



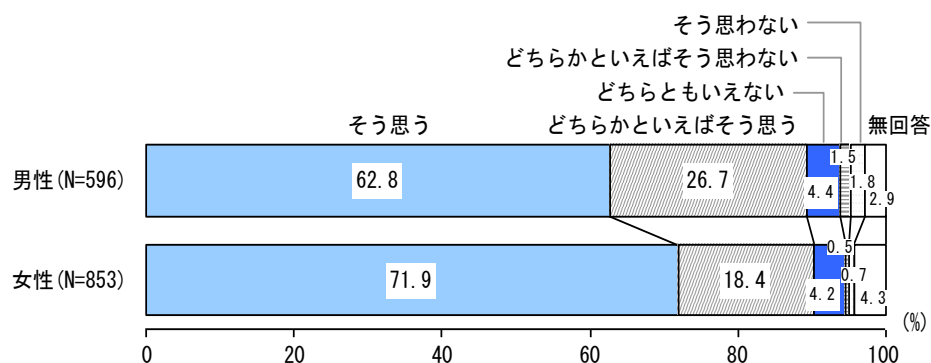
「カ. 「甲斐性なし」、「誰のおかげで生活できるんだ」等くりかえし言う行為」を性別で見ると、男女とも暴力と考える“肯定派”が8割台を占めており、「そう思う」の割合では、女性（67.3%）が男性（57.7%）に比べ9.6ポイント高くなっている。（図 3-3-11）

【図 3-3-12 年代別 カ. 「甲斐性なし」、「誰のおかげで生活できるんだ」等くりかえし言う行為】



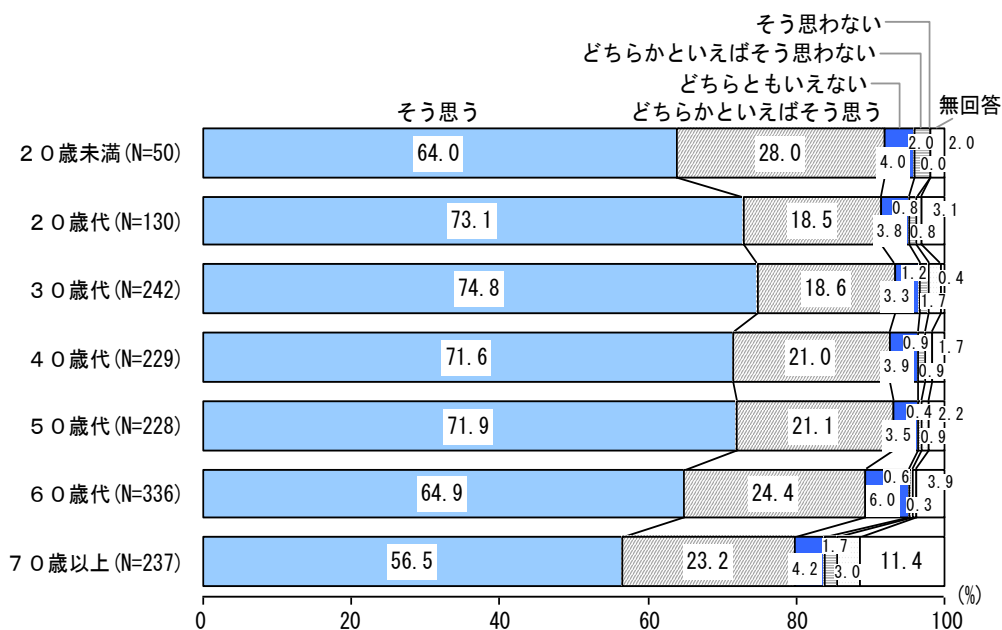
「カ. 「甲斐性なし」、「誰のおかげで生活できるんだ」等くりかえし言う行為」を年代別で見ると、60歳代以下の年代では暴力と考える人が9割前後を占め、70歳以上では76.4%となっている。（図 3-3-12）

【図 3-3-13 性別 キ. なぐるふりをしたり、大声でどなったりする等威嚇する行為】



「キ. なぐるふりをしたり、大声でどなったりする等威嚇する行為」を性別で見ると、男女とも暴力と考える“肯定派”が9割前後を占めており、「そう思う」の割合では、女性（71.9%）が男性（62.8%）に比べ9.1ポイント高くなっている。（図 3-3-13）

【図 3-3-14 年代別 キ. なぐるふりをしたり、大声でどなったりする等威嚇する行為】

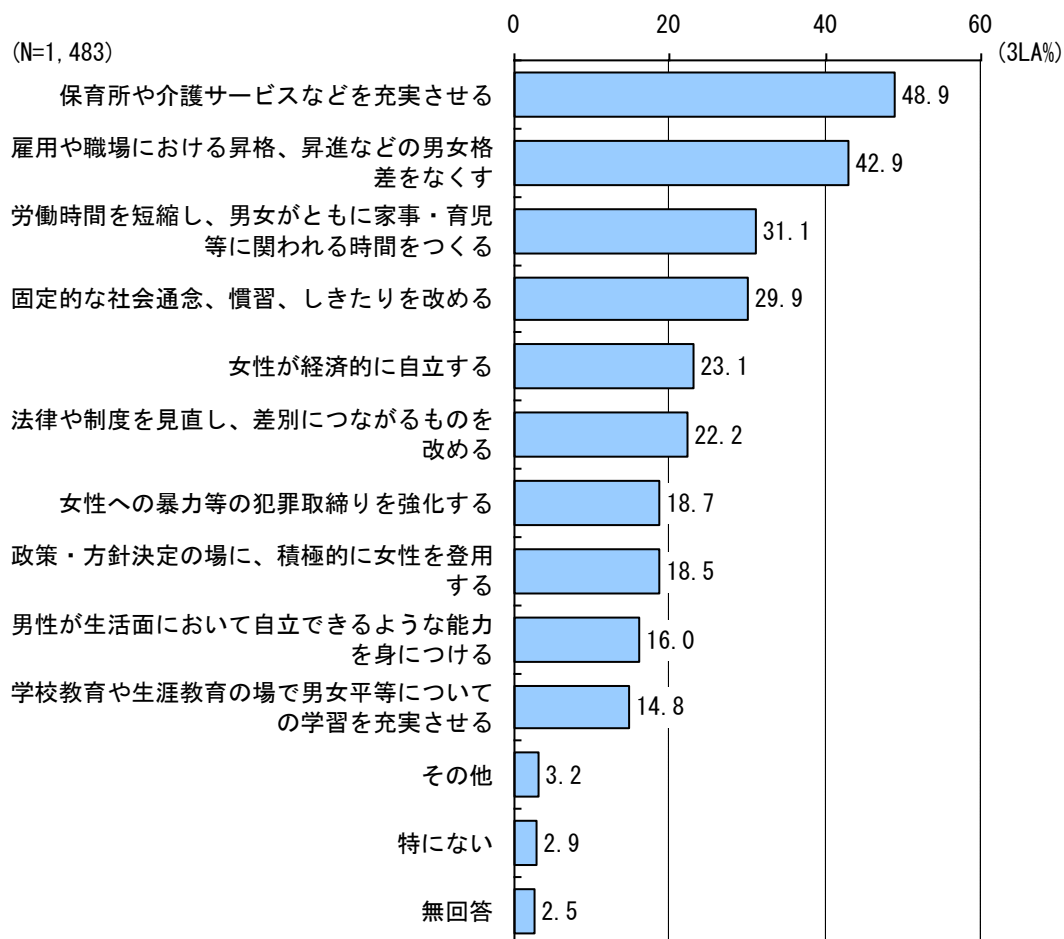


「キ. なぐるふりをしたり、大声でどなったりする等威嚇する行為」を年代別で見ると、60歳代以下の年代で暴力と考える人が9割前後を占め、70歳以上で79.7%となっている。（図 3-3-14）

(4) 今後、男女が社会のあらゆる分野で平等になるために重要なこと

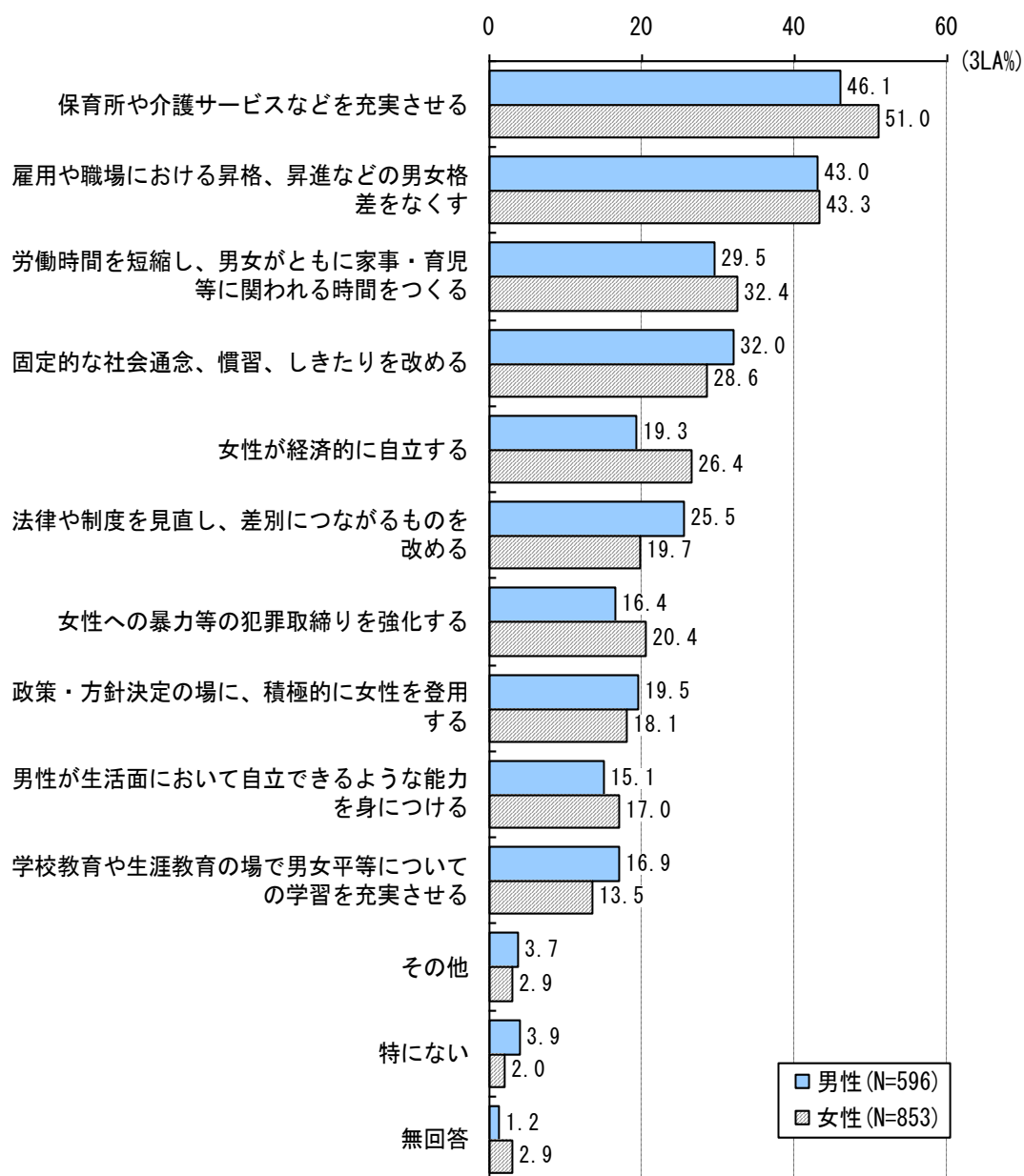
問 16 あなたは、今後、男女が社会のあらゆる分野で平等になるために、特に重要と思われるものは何ですか。(あてはまる番号3つまでに○)

【図 3-4 今後、男女が社会のあらゆる分野で平等になるために重要なこと】



今後、男女が社会のあらゆる分野で平等になるために重要なことについては、「保育所や介護サービスなどを充実させる」(48.9%)と最も高く、次いで「雇用や職場における昇格、昇進などの男女格差をなくす」(42.9%)、「労働時間を短縮し、男女がともに家事・育児等に関われる時間をつくる」(31.1%)、「固定的な社会通念、慣習、しきたりを改める」(29.9%)と続いている。(図 3-4)

【図 3-4-1 性別 今後、男女が社会のあらゆる分野で平等になるために重要なこと】



今後、男女が社会のあらゆる分野で平等になるために重要なことを性別で見ると、男女とも「保育所や介護サービスなどを充実させる」が最も高く、女性（51.0%）が男性（46.1%）に比べ 4.9 ポイント高くなっている。また、「女性が経済的に自立する」では、女性（26.4%）が男性（19.3%）に比べ 7.1 ポイント高くなっている。

一方、「法律や制度を見直し、差別につながるものを改める」では、男性（25.5%）が女性（19.7%）に比べ 5.8 ポイント高くなっている。（図 3-4-1）

【表 3-4-2 年代別 今後、男女が社会のあらゆる分野で平等になるために重要なこと】

(上段：回答者数/下段：回答比率) (3LA%)

	調査数	保育所や介護サービスなどを充実させる	雇用や職場における昇格、昇進などの男女格差をなくす	労働時間を短縮し、男女がともに家事・育児等に関われる時間をつくる	固定的な社会通念、慣習、しきたりを改める	女性が経済的に自立する	法律や制度を見直し、差別につながるものを改める	女性への暴力等の犯罪取締りを強化する	政策・方針決定の場に、積極的に女性を登用する	男性が生活面において自立できるような能力を身につける	学校教育や生涯教育の場で男女平等についての学習を充実させる	その他	特になし	無回答
20歳未満	50 100.0	21 42.0	29 58.0	16 32.0	12 24.0	9 18.0	11 22.0	12 24.0	9 18.0	5 10.0	4 8.0	1 2.0	3 6.0	- -
20歳代	130 100.0	59 45.4	64 49.2	56 43.1	30 23.1	16 12.3	22 16.9	34 26.2	18 13.8	13 10.0	13 10.0	8 6.2	3 2.3	4 3.1
30歳代	242 100.0	133 55.0	94 38.8	110 45.5	60 24.8	57 23.6	51 21.1	52 21.5	34 14.0	41 16.9	24 9.9	6 2.5	7 2.9	2 0.8
40歳代	229 100.0	121 52.8	106 46.3	74 32.3	73 31.9	51 22.3	38 16.6	29 12.7	48 21.0	28 12.2	27 11.8	12 5.2	8 3.5	5 2.2
50歳代	228 100.0	116 50.9	106 46.5	56 24.6	77 33.8	54 23.7	47 20.6	41 18.0	35 15.4	34 14.9	38 16.7	10 4.4	7 3.1	6 2.6
60歳代	336 100.0	164 48.8	134 39.9	85 25.3	116 34.5	93 27.7	83 24.7	55 16.4	74 22.0	60 17.9	61 18.2	7 2.1	9 2.7	7 2.1
70歳以上	237 100.0	99 41.8	94 39.7	55 23.2	67 28.3	61 25.7	70 29.5	49 20.7	53 22.4	53 22.4	49 20.7	3 1.3	3 1.3	9 3.8

今後、男女が社会のあらゆる分野で平等になるために重要なことを年代別でみると、20歳代以下の年代で「雇用や職場における昇格、昇進などの男女格差をなくす」が最も高く、30歳代以上の年代では「保育所や介護サービスなどを充実させる」が最も高くなっている。

また、「労働時間を短縮し、男女がともに家事・育児等に関われる時間をつくる」では、20歳代（43.1%）と30歳代（45.5%）が4割台となっている。

「男性が生活面において自立できるような能力を身につける」と「学校教育や生涯教育の場で男女平等についての学習を充実させる」では、年代が上がるにつれて割合が上昇している。

（表 3-4-2）